2022.7. 30 Vo.12

NEXT！通信

第10回記念公演　【NEXT！～いちかわ黄金伝説～】

ヨッシー・ノート　「黄金伝説シリーズ解説」①

今回のドラマに紹介する「いちかわ黄金伝説」を次々解説していきます。ドラマ創造の参考にしてください。

第六話「行徳神輿復活」伝説

【　行徳は神輿（みこし）の街　】

市川市行徳地区は昔から塩づくり、農漁業、川の工商交通の宿場町。祭ともなれば山車や神輿が町内を巡る賑わい町でした。　全国から集まった工芸職人たちが知恵と技量を結集した「行徳神輿」は有名で、全国の御輿の4割が「後藤・浅子・中台」の御三家を始めとする行徳で製造されたと言われます。　浅子神輿店が最初に神輿の製作を始めたのは、明治10（1877）年、東京都荒川区の素盞雄（すさのお）神社に納める本社神輿でした。

【　船渡御（ふなとぎょ）】

その神輿が百年を機に大修繕を終えて再び神社に納める際、船渡御が110年ぶりに再現されました。「船渡御」とは、完成した神輿を船で納める神事のことです。

昭和63（1988）年、高張提灯やのぼり旗をしめ縄で飾った中に神輿を積み、祭り囃子や太鼓、巫女の舞いなどで賑やかに送られながら、船は行徳常夜灯の元を離れていきました。大変賑やかな行事で、今ではもう再現不可能でしょう。その行事を仕切ったのが当時50歳のシングルマザー・田中愛子さんでした。

「50歳から始める！」～　実行委員長・田中愛子さんに聞く

ヨッシー：　どんな50歳でした？

田中：　祖父が地元の有力者で一人娘で、さほどの苦労もなく子ども二人を育てるシングルマザー。おしゃべりや手工芸が好きで、ＰＴＡ活動などで発散してたけど、本音は“漠とした不安を抱えた50歳の女”。

ヨッシー：行徳神輿との関りは？

田中：　浅子神輿の事業に協力してたある日、十五代浅子周慶さんから「素戔嗚神社に収めた大御輿を修繕してお返しする。百年前と同じ方法・船渡御で運ぶ。市民行事として取り組もう！」と提案されて周りも面白がって、「行徳企画村村長」として私が船渡御行事代表に押し上げられ、以来「面白いことが大好きな女」に変身しました。

ヨッシー：　実行委員長になられた意図は？

田中：　2008年の「アジアンブルー」で“行徳富士”が描かれた時も実行委員長。もっともっと行徳を知ってほしい。ということで再度挑戦！

いちミューも好き！行徳も好き！

2008年の実行委員長の時の愛子さんのお写真

NEWS① 出来ました！市民ミュージカルオリジナルTシャツ

ご注文方法は➤➤➤受付にある「Tシャツお申込書」と代金を添えて受付に！

４色あります
白、ピンク、
ターコイズブルー、
ダークヘザーネイビー

サイズは
120～XXXLまで

NEWS②市川市の 田中甲市長にご挨拶に行ってきました！

田中愛子実行委員長、市民ミュージカル実行委員で市議でもある石原みさ子さん、土屋正順さん、元県議の水野文也さん、蓮尾さん、松藤事務局長、ヨッシー。市長にミュージカル開催のお知らせと、市民ミュージカルを通して「わが街いちかわ」を大好きになって、そして、文化活動を通して人や街がつながり、元気を生み出す市民活動を行政も一緒になって盛り上げて下さい！ぜひ市長もご出演下さいとお願いしてきました。

受付のお手伝いをしてくれて、ありがとう！

ハンドメイドの“タヌキ”です。かわいいよ

初めての稽古場！【行徳I＆Iホール】のご案内

●住所：市川市 末広1-1-48

●交通：東京メトロ東西線行徳駅より徒歩7分

次週の稽古予定

◆８/6(土）行徳I＆Iホール

◆８/７(日）南行徳公民館

両日とも、対象となる参加者
稽古時間等は７/31(日）の
稽古時にお伝えいたします。
ご了承ください。
予定　１１：００～１７：００